

水稻の生育状況と今後の管理対策（臨時第4号）

「新之助」は籾の黄化状況をほ場で必ず確認し、 早刈りにならないよう適期に収穫してください

令和3年9月17日
新潟県農林水産部

〔新之助の収穫前品質調査の結果〕

- ◎ 作物研究センター（長岡市）における新之助の収穫前品質調査（積算気温 800℃）では、青未熟粒の発生率が前年より4ポイント高い値となっており、登熟の進みがやや遅い状況です。
- ◎ また、葉色の低下が緩慢なほ場や穂揃いが悪かったほ場では、青未熟粒の発生率がより高まることが懸念されます。

〔管理対策のポイント〕

- ◎ 新之助は、出穂後の低温と日照不足の影響により、登熟が緩慢になっています。
出穂期後の積算気温 1,050～1,100℃程度が収穫適期ですが、必ずほ場で籾の黄化状況（黄化籾割合 85～90%がめやす）を確認し、地域の技術情報と最新の気象情報を参考に、早刈りにならないよう適期に収穫してください。
- ◎ 玄米水分が低いと食味が低下し、高いほど貯蔵性が劣るため、手持ちの水分計でこまめに水分を確認し、食味・品質基準の水分含有率（14%以上、15%以下）となるよう、乾燥を仕上げてください。
- ◎ 篩い目 1.9mm 以上を使用し、適正な流量で丁寧に調製して、1等級の品位に仕上げましょう。
- ◎ 事前に研究会単位で目合わせを行い、必要に応じて篩い目を上げたり、色彩選別機を活用するなど、品質基準を満たすよう調製を徹底してください。

農作業安全

- ◎ 収穫作業時のコンバインの転倒・転落や、タオル、衣服、軍手などの動力部への巻き込みに十分注意しましょう。
- ◎ 1人で作業する場合は、家族などへ行き先を告げるとともに、緊急時に連絡がとれるよう、携帯電話を身につけておきましょう。